放射性物質全域調査及び土壌回収作業進捗状況(平成20年10月)

	実施項目	実績(10月)	予定(11月)
所内全域調査	1. 第1次調査	(完了)	
	2. 第2次調査	施設S(S棟南側)にて放射線測定とボーリング調査を実施	同左
土壤回収作業	1. 回収計画立案	(完了)	
	2. 準備作業	なし	
	3. 回収作業	鉱石由来土壌回収場所での回収作業を継続。 作業用テントCでの精製済ウラン含有土壌な どの回収作業を完了	鉱石由来土壌回収場 所での回収作業を継 続
	4. 回収土壌などの保管	10月31日現在、精製済ウランを含有する土壌などを1.5m³角型容器で241個(注1)(200リットルドラム缶換算1,808本)回収し、放射性廃棄物として施設Sに保管していた68個を地下保管庫(施設N)に搬入し、既に搬入済の173個と合わせて全量を地下保管庫(施設N)に保管。鉱石由来のウラン、トリウムを含有する土壌などを1.5m³角型容器で798個(注1)回収しS棟に保管。このうちの480個を開発A棟に搬入し保管	回収してS棟に保管している鉱石由来のウラン、トリウムを含有する土壌などの開発A棟への搬入
	5. 行政庁への手続き	施設Sと作業用テントCの解体撤去手続きに ついてヒアリング	同左
その他	1. 環境モニタリング	空間線量当量率及び空気中の放射性物質濃度 の測定。地下水の採取と分析	同左
	2. 放射性廃棄物の保管(注2) (地下保管庫)	10月31日現在、200リットルドラム缶152本、 1.5m ³ 角型容器2,997個、2m ³ 角型容器828 個、200リットルドラム缶換算で合計30,910 本を地下保管庫(施設N)に保管。なお、地下保管庫にはNDC社が、1.5m ³ 角型容器で 1,180個(200リットルドラム缶換算8,850 本)を保管	

⁽注1) 回収作業を開始してからの累計で示す。

⁽注2) 「旧核燃料試験研究施設整備」のものに加えて土壌回収作業での回収土壌なども含みます。